

2015（平成 27）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

- 清教学園の目指す人間像
- ①神を信じ誠実に仕える
 - ②真理を学び賜物を生かす
 - ③隣人と共に平和を築く

2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

- 1 教育の質的向上
 - (1) 学力伸張を図る
 - (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
 - (3) 高い倫理観と **Servant Leadership** を育成する ***Servant Leadership** :「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え
- 2 生徒における学校生活の充実
 - (1) 特別活動の充実
 - (2) 生徒指導の充実
 - (3) 生徒支援
- 3 環境整備力の向上
 - (1) 施設の充実
 - (2) 外部環境への対応
 - (3) 情報の共有化と発信力の促進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><評価結果の高かった項目></p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上につながる授業が多い。 (中学生：88.6%) *高校生：79.8% 中高とも前年比より向上 ・宗教・人権教育が重要視されている。 (中学生：82.5%、高校生：86.0%) ・姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している。 (中学生 88.8%、高校生 87.2%) ・電子黒板や書画カメラは学習理解を深める (*中学生のみ) (中学生：93.4%) *前年度 90.2%、前々年度 87.6% ・熱心に指導してくれる先生が多い (中学生：92.1%、高校生：85.5%) ・家庭への連絡は適切に行われている。 (中学生：82.2%、高校生：84.9%) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は建学の精神および学園の目指す人間像を理解している。 (中学保護者：82.8%、高校保護者：86.3%) ・規則遵守やマナー/美化意識等を高める指導がなされている (中学保護者：95.9%、高校保護者：91.9%) ・熱心に指導してくれる先生が多い (中学保護者：89.6%、高校保護者：91.2%) ・家庭への連絡は適切に行われている (中学保護者：86.2%、高校保護者：89.1%) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は充実した学校生活を送っている。(96.5%) <p><評価結果の比較的低かった項目></p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室は利用しやすい。 (中学生：65.4%、高校生：71.4%) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業で十分な学力がつく (中学保護者：69.6%、高校保護者：59.3%) <p><全体総括></p> <p>グローバル教育推進の中、生徒自身における学習意識の全般的な向上が認められ、SGH アソシエイト校としての各種取組の成果と評価できる。他方、まだ施設面での満足度が十分でなく、要改善である。</p>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2015（平成 27）年度については、2016（平成 28）年 3 月 26 日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p><意見></p> <p>【学識経験者】</p> <p>○学習指導について ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「塾等に行かなくても学校の勉強で十分な学力が付く」という項目については、高校生においては改善しているが保護者においては評価が悪くなっているため、保護者の指摘事項をしっかりと踏まえながら重点的に改善を進められたい。 ・アンケート結果を経年的に確認できる中、生徒においては全般的に評価がアップしている一方で、保護者においては全般的に評価がダウンしているため、こうした逆の傾向性については詳細に分析をしておく必要があるだろう。 ・教員と保護者におけるの評価ギャップは縮小してきたが、学習指導面など、依然としてギャップのあるものについては、真摯に留意することが必要だろう。 ・中学生においては「自習室」に関する改善度が弱く、高校生においては「公平性」に関する改善度が弱いという点に留意がさらに必要だろう。 ・部活動に関しては、見解がさまざまである中、評価の安定化を図っていく必要があるだろう。教職員がベストな健康状態で生徒たちへの教育に携わるためにも、学業と部活動との適切なバランスのあり方については、引き続き検討を進めてもらいたい。 <p>【学園卒業生】</p> <p>○教育理念の具現化について ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開については、中高教職員における評価は良くなっているが、高校生においては依然として高い評価が得られていないため、彼ら彼女らに取り組みの内容が実感されるような工夫を望みたい。中高生がよく利用する動画配信媒体や SNS 媒体の活用を図っていくことも検討を要するだろう。いまや生徒たち自身が「伝えるモチベーション」を持っていく中、その内容をうまく外部発信してあげられるような仕組みを検討することも別途必要であろう。 ・「宗教・人権教育が重要視されている」という項目では、教員における評価があまりよくないように思われる。経年的には少しずつ改善しているが、礼拝の改善など常に話題には挙げられていることについては、さらに具体的な動きを進めてほしい。また、宗教部が中心になって、生徒たちとともに社会的な活動を実施してほしい。SGH プログラムの意義深化にも繋がるだろう。とりわけ震災支援に対しては、宗教部が継続的な努力を行うべきである。いずれにせよ、建学の精神に関わる事項についても、さらに新たなことに取り組んでいくことが求められている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. ソーシャルスキルトレーニング（コミュニケーションワーク）をはじめ、生徒の自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育の重要視する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→前者について生徒：中70.7%、高63.5%、保護者：中87.9%、高88.1%、教員：60.3%、また後者については生徒：中77.6%、高82.5%、保護者：中93.6%、高93.2%、教員70.4%)</p>	<p>ア. 建学の精神に関する理解については、中高とも前年度に続き保護者からの評価が高い。(中学83%、高校86.7%) 教職員の改善がみられたが、高校生においては27%近くが低い評価である。学園の教育方針に触れる機会を更に増やす改善を進めたい。また宗教・人権教育については、中・高校生で80%に到達し改善がみられる。他の対象者枠では教員(70.2%)を除き高く評価されている(83~95%)。心の豊かさを求める時代背景を反映した期待の表れと捉え、引き続き努力を重ねたい。(△)</p>
	(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成	<p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p>	<p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果は全ての評価対象者枠において80%以上 (前年度→生徒：中91.6%、高79.2%、保護者：中96.5%、高94.1%、教員94.3%)</p>	<p>イ. 高校生においては80%を下回ったこと(79.2%)から、生徒の視点から見た形での改善策を具体化できるように努める必要がある。(△)</p> <p>ウ. グローバル教育については、取り組み内容が新たな段階に入り日常の学業生活にいつそう溶け込む工夫が施されたことから、とりわけ高校生における効果への実感が高まり、評価結果が80%を超えている。(80.5%)。(○)</p>
	(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	<p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>ウ. グローバル教育（語学研修や留学）が充実しているに関する評価結果がどの生徒・保護者において85%以上 (前年度→生徒：中78.6%、高80.5%、保護者：中88.2%、高89.6%)</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多いか（主要5教科平均）および電子黒板の学習効果に関する評価結果が生徒において80%以上 (前年度→生徒：中86.8%、高77.3%)</p> <p>オ. 「学校のみで十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒を見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中75.9%、高68.3%、保護者：中74.9%、高74.3%)</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高める」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中79.1%、高65.6%、保護者：中94.3%、高88.7%)</p> <p>キ. 「将来の進路・職業の適切な指導を行っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中62.9%、高72.3%、保護者：中81.9%、高86.9%)</p>	<p>エ. 中学生は、前年度よりもさらに数値が向上し、全教科で80%以上、全体平均で88.6%という評価結果が得られた。学習内容が精緻化し負荷の多くなる高校においても、80%にはわずかに届かなかった(79.7%)が、評価が上昇している。これは本年度より授業にアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が自主的・積極的に学習に取り組むよう促していることが関係していると捉えられる。来年度はこの取り組みをさらに強化してゆきたい。電子黒板の効果については94.9%(昨年度90.2%)の中学生が高く評価しており、活用方法の質をさらに高めることで学習意欲の向上につながると考えられる。(△)</p> <p>オ. 中学生においては84.2%と評価が高いが、高校生においては、前年度よりは改善したが、まだ80%には及ばない(70.4%)。授業や補習・追試などはもちろん、ラーニングコモンズの整備等、環境整備の点でも工夫を施して改善を図りたい。また、この観点は保護者の評価も低く、中学保護者69.9%、高校保護者66.9%にとどまっている。この評価を80%を上回るように改善していくことが課題である。(△)</p> <p>カ. 学校図書館大賞(日本一)を受賞している本校図書館「リブラリア」であるが、中学生の評価は高い(86.6%)ものの、高校は70.4%にとどまっている。やはり高校教室からの移動距離が影響しているとみられる。今後は高校の教科(授業)とリブラリアの連携など、具体的な改善の取り組みが必要である。(△)</p> <p>キ. 昨年度より中・高とも数値が改善した(中学生徒73.1%、高校生徒77.7%)。昨年度から導入してきた新しい取り組みが少しずつ効果を上げてきていると考えられる。中・高とも80%以上を目指して、進路部を中心に、今後も職業体験プログラムの拡充等、次々に改革を進めていく必要がある。(△)</p>

<p>2 生徒における学校生活の充実</p>	<p>(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化</p> <p>(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化</p> <p>(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進</p>	<p>ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。</p> <p>イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。</p> <p>ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。</p> <p>エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。</p> <p>オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。</p>	<p>ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果が高校生以外の評価対象者枠において80%以上 (前年度→生徒：中 85.6%、高 69.9%、保護者：中 94.3%、高 88.7%、教員：75%)</p> <p>イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%未満 (前年度→生徒：中 71.4%、高 50.4%、保護者：中 81.2%、高 70.8%、教員 60.3%)</p> <p>ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」に関する評価結果が高校生以外の評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 83%、高 77.4%、保護者：中 93.9%、高 94.7%、教員 79.6%)</p> <p>エ. 「保健教育を通じて健康管理の大切さが高まっているか」に関する評価結果が中学生・保護者・教員において80%以上 (前年度→生徒：中 78.6%、高 74.3%、保護者：中 90.7%、高 89.7%、教員：77.3%)</p> <p>オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 67.3%、高 69.3%、保護者：中 88.5%、高 90.1%、教員 93.2%)</p>	<p>ア. 中学生、保護者、教員においては高い評価を得たが(いずれも80%超)、高校生については3割弱において課題があると思われる(27.9%)、前年度比でやや改善はされたものの低調になっている。高校での文化祭の実施を含め、行事に多様性を施す工夫について検討に改めて着手したい。(△)</p> <p>イ. 前年度に引き続き、評価は高くなかった。(いずれも80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかであり、けじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う仕方を再度本格的に検討していく必要がある。(△)</p> <p>ウ. 前年度に引き続き、中高とも保護者から高い評価を得ている(いずれも90%超)。中学生においてはさらに評価が上がっており(88.7%)、生徒における意識そのものも向上したことがうかがえる。今後は高校生においても80%を超える評価が得られる状況になっていくよう、さらに指導に努めたい(77.8%)。(△)</p> <p>エ. 前年度に引き続き、保護者においては80%超の高い評価となっている。生徒においては、中学生において80%超となり、高校生においても79.7%とほぼ80%に近い状態である。教員においても87.7%と、前年度より大きく向上した。「保健だより」の発行等により良好な傾向にあると言える。(○)</p> <p>オ. 保護者における評価が高い一方で(中学81.6%、高校82.6%)、生徒における評価は前年度と同様に高いとは言えない状況が続いている(中学75.3%、高校73.4%)。教員の自己評価(91.2%)との乖離がまだまだ大きい状況であるが、前年度と比べて差は若干ながら縮まってきている。引き続き生徒の悩みとするところをきちんと把握し、生徒本人が満足できるまで聞き取ってあげられるよう、各教員におけるカウンセリングマインドのさらなる醸成に努めたい。(△)</p>
----------------------------	--	---	--	---

<p style="text-align: center;">3 環境整備力の向上</p>	<p>(1) 施設の充実</p> <p>(2) 外部環境への対応</p> <p>(3) 情報の共有化と発信力の促進</p>	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p> <p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p> <p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 65.0%、高 66.4%、保護者：中 78.7%、高 83.2%、教員 84.1%)</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：高 66.9%、保護者：高 69.6%、教員 55.7%)</p> <p>ウ. 「災害や不審者から生徒を守れるか」に関する評価がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生 74.4%、高校生 73.4%、中学保護者 89.1%、高校保護者 86.0%、教員 77.3%)</p> <p>エ. 「家庭への連絡は適切に行われているか」に関する評価結果が保護者枠においても80%以上 (前年度→中学保護者 86.9%、高校保護者 88.4%)</p> <p>オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生 68.3%、高校生 60.1%、中学保護者 91.4%、高校保護者 88.4%、教員 75.0%)</p>	<p>ア. 中学生は前年度とほぼ同レベル、高校生においては若干改善したものの(中学 65.4%、高校 71.4%)、改善策の具体化が必要である。高校生における改善は、ラーニングコモンズのスペース(LCS)の開設に依るところがあると思われる。従来の自習室、LCSともに、生徒における不満点をアンケートの実施等で引き続き把握しつつ改善に努めたい。(△)</p> <p>イ. 前年度同様、全般に低い状況である(高校生徒 72.3%、高校保護者 63.5%、教員 48.9%)。メニュー面、収容スペース面、営業時間面のどれが大きな課題になっているか、再調査の上、改めて改善を図りたい。(×)</p> <p>ウ. 中学生(80.8%)、中学保護者(87.9%)、高校保護者(86.0%)において指標の数値を上回る評価を得た。前年度に引き続き、中高保護者からの信頼は厚い。また、中学生において前年度(74.4%)の評価から6%上昇した。生徒の安心・安全を守る環境づくりの努力を継続していきたい。(△)</p> <p>エ. 保護者との連携については、前年度に引き続き高い評価を得ている(中学 86.2%、高校 89.1%)。PTA活動が盛んであるという高評価から、学校は今後も保護者と良好な協力関係を保ちつつ生徒のための良き環境づくりの努力を継続していくべきである。(○)</p> <p>オ. 保護者の評価は前年度を上回り(中学 94.3%、高校 89.2%)、高い関心を寄せていることが分かる。教員においては84.2%と9.2%と高く上昇した。教員自らが学園生活を発信することにより多く関わっていることを示していると考えられる。生徒の評価は指標値に達しないものの(中学生 77.6%、高校生 61.1%)、前年度から上昇し、とりわけ中学生において10%近く伸びている。さらに前進する工夫を続けて行きたい。(△)</p>
---	---	---	---	---

以上